

国際学部 カリキュラム・ポリシー

■ グローバル・イノベーション学科

本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた人材育成の目標を達成するため、以下のとおり「教育課程編成・実施の方針」を定める。

- (1) 初年次に、学科の学びのベースとなる国際教養学、国際経営学、イノベーション等に関連する基礎知識を身につける『入門科目』を必修として配置する。『入門科目』では、基礎知識の獲得だけでなく、その後の学科の学びや自身のキャリアにつながる主体的な姿勢も育てる。
- (2) 実践的な言語運用能力およびグローバルな対話力を養う『外国語科目（英語）』を初年次から配置する。国際基準（CEFR）をもとに英語力を養成し、外部検定試験で学修成果を評価する。加えて、留学生と共に英語で教養を学ぶ『国際交流関係科目』を配置する。英語以外の言語は、選択必修として展開する。
- (3) 国際社会で活躍するために必要な教養および専門的知識として、初年次から『大学共通科目』を配置する。2年次以降は、国家間・地域間の共通点と相違点の多面的な分析に必要な国際教養学、実践的な課題解決とアントレプレナーシップの養成につながる国際経営学を体系的に修得する『基幹・発展科目』を配置する。
- (4) イノベーションの理論と実践事例を学ぶ『イノベーション科目』を『基幹・発展科目』とあわせて2年次に配置する。新しい価値を創造することの楽しさやサステナビリティに配慮し社会課題を解決することの意義など、イノベーションの理論に加えてイノベーションを起こす価値を教授する。
- (5) ある特定地域の研究を通して地域社会への理解を深めながら、国家間・地域間の共通点と相違点を比較研究し、国際社会をより深く理解するための『地域研究科目』を3年次に配置する。グローバル・ローカルの双方から国際社会を理解することで、国際化への適応力を高める。
- (6) 学科として実体験型の学修を重視することから『留学・国際共修科目』を配置する。海外留学・国内外でのインターンシップ・国際的な現場での経験のいずれかを必修とし、取組みの内容を評価したうえで単位として認定する。初年次から異文化に適応するためのスキルを養う科目を配置し、3年次以降は、異な

る文化や背景を持つ者同士が共修するプロジェクト科目を配置する。

- (7) 4年間にわたり少人数による『演習科目』を配置する。初年次～2年次には、現代社会において必要な情報リテラシー等も身につけながら、情報収集・分析力、批判的思考力を養う。また、プロジェクト型の演習を通してチームで協働し、実践的な問題解決力を高める。3年次からは専門演習で自身の研究テーマを定めて学びを深化させ、4年次には、これまでに得られた学びを統合し、イノベーションへとつながる個々の卒業研究を学修成果として評価する。
- (8) 教育方法については、理論として得た知識を実践させる実体験型の学修を重視する。また、ディスカッション、プレゼンテーション、プロジェクトなどのアクティブラーニング手法を多くの場面で取り入れた授業を展開し、問題解決に必要な柔軟な思考力、多様な社会のなかで必要となる協働力およびリーダーシップを養う。
- (9) 学修成果の評価については、成績評価基準を明確に策定し、各科目のシラバスに明記する。筆記および実技試験に加え、授業内で課されるレポート、プレゼンテーション、英語外部検定試験、海外留学・国内外でのインターンシップ・国際的な現場での経験およびその成果、卒業研究などを含む多面的な評価を行う。